

施設キュウリ産地の維持・強化に向けた支援

(対象：東部農業事務所館林地域農業課)

【評価できる点】

- ・全国有数の産地でありながら出荷量の減少が大きく、この危機感を関係者が共有できている。将来の見通しを含め、産地の置かれている状況を整理した上での課題設定となっていると考える。管内関係者の合意形成を前提とした取組として、農業者が各所の支援を受けやすい体制であると評価する。
- ・キュウリ産地の現状分析に基づき、明確な目標を設定している点が評価できる。特に、産地規模の縮小という課題に対し、新規就農者の確保と育成、収量増加による出荷量維持という、二つの柱を立てている点は論理的である。
- ・「キュウリ産地の維持・強化（量は力なり）」という課題設定に対して、取組事項も明確である。特に、新規担い手の確保育成は産地を挙げての取組となるよう支援しており、大変評価できる。
- ・新規就農者を対象としたフォローアップ巡回など、経営の早期安定に向けた仕組みがある。このような活動を通して新規就農者が増えていくことを期待したい。また、各種補助事業の交付対象となれるので、研修生が認定新規就農者として認定されるための支援は評価できる。
- ・目標達成に向けた多角的な活動が展開されており、一定の成果を上げている点が評価できる一方で、目標未達となった項目についても、その要因分析をしっかりとされているため、今後の改善に活かせると思う。
- ・「節なり会」のような取組が県内でも普及してほしいと思う。そのための支援体制として今後は管外にも発表していただきたい。
- ・生産者らが自ら学び考える機会を提供し、技術向上を図る仕組・体制支援は評価したい。当該取組が無ければどうなっていたか、の視点で見ると非常に重要。
- ・現状を客観的に捉え、具体的な改善策を提示している点が評価できる。特に、労働生産性の向上や経営規模拡大への対応は、産地維持・強化の鍵となると思う。認定新規就農者が出て一方で、後続の研修生が確保できていないという課題を明確に認識しており、ホームページやイベント出展を活用したPR活動を計画している点は適切だと感じた。
- ・若手生産者が産地を牽引する兆しが表れ、研修会等で技術の向上をさらに目指しているところが評価できる。また、トップランナービジネスを中心とした産地の維持、強化を図ることは、新規就農者の定着や新たな生産者の確保につながる良い活動と思う。是非、継続できるような支援を期待したい。

- ・館林市の「節なり会」の取組は後継者不足を払拭していると思う。学び、体験し、お互いに切磋琢磨して、より良い農業を目指して頑張れるとと思う。
- ・組織化された体制の下、過去から継続的に就農者の確保や労働力支援に取り組んできていると認識しているが、既存生産者の減少度合に対する参入者数は極めて低い厳しい状況にあるのが実態。その中でも、意欲の高い、若手・中堅生産者の要望に普及活動として上手く対応し誘導し、産地強化に繋げられている事例として、客観的に評価されたことについても納得する。キュウリ専作や、高温対策としての年1作体系への移行など、意欲的且つ生産者までの合意形成を得た着実な取組が引き続き行われることを期待したい。
- ・産地が抱える深刻な課題に対し、明確なビジョンと具体的な行動計画に基づき、多岐にわたる普及活動を展開した点が評価できる。特に、関係機関の連携強化、新規就農者の一貫した支援、そして先進技術導入による生産性向上という、複数の取組が有機的に結びついている。数値目標の未達があった点も、外部要因（高温）によるものと分析されており、活動自体の評価を損なうものではありません。むしろ、この分析に基づき、労働生産性の向上や新たな栽培方式の導入など、本質的な課題解決に向けた次なる戦略を立てている点は高く評価できる。
- ・今後も、新規就農者の確保と育成、そして既存の担い手に対する技術支援を継続することで、産地全体の持続的な発展が期待できる。特に、データ駆動生産の取組や、スタディクラブのような生産者主体の活動は、他産地のモデルとなり得るものであり、引き続きの活動に期待する。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

◆意見・要望

- ・産地全体の生産量維持や、1戸あたりの単位収量が増えれば出荷調整の労力も増大するので、共同選果場の設置を検討してはどうか。

【回答】

ご指摘のとおり、当課も現状の労働力で出荷量の増大や規模拡大を実現するに当たり、出荷調製に係る労力削減対策の必要性を強く認識しています。共同選果場の設置については、今年度の邑楽館林野菜振興会議を通じて検討を重ねているところですが、過去に検討と議論の凍結を繰り返している経緯があることから、キュウリ農家に対し選果場設置に伴う費用体効果を丁寧に説明するとともに、実需者の要望等を精査の上、引き続き設置の議論を進めて行きたいと思います。

2 活動内容に関するここと

◆意見・要望

- ・スタディクラブ「節なり会」については、普及活動にうまく活用するよう検討してはいかがか。

【回答】

「節なり会」は幅広くキュウリ農家を受け入れていることから、就農予定者が就農前技術研修期間中から「節なり会」の活動に参加し、短期間で技術習得する優良事例が生まれ、普及計画に掲げる新規就農者の就農定着支援につながっています。

また、「節なり会」の会員は優れた単収実績に裏付けられた高度な栽培技術を有していることから、普及指導員は「節なり会」の活動で得た情報を他の農家の指導に生かしたり、逆に普及指導員の現地活動で得られた優良事例や失敗事例を「節なり会」に情報提供したりすることで、効率的な活動を展開してきたところです。

御指摘いただいた点を参考に、次年度の普及計画では「節なり会」の活動支援を通じて環境制御技術の導入拡大など、キュウリ産地全体の維持、強化につながる活動を展開してまいりたい。

- ・対外発信としての方法が紙媒体など限定的である印象を受けた。広くSNSを活用した新規就農募集もしたらどうか。

【回答】

SNSを活用して群馬県農政部ぐんまブランド推進課のインスタグラムを通じて邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会（以下協議会という。）の活動紹介や現地説明会の告知などを発信しました。今年度中に協議会で動画制作を予定しており、引き続きにインスタグラムの発信を検討してまいりたい。

その他、公益財団法人群馬県農業公社が運営する新規就農者支援のHPを通じて、担い手募集に関する情報の掲載を行いました。また、就農促進を含めた農業情報を発信している「マイナビ農業」のHPにも協議会活動情報を掲載していますが、今年度中に新規参入者の情報等新たに追加を発信する等、今後もご指摘頂いた意見を参考に新規就農者の確保、育成に取り組みたいと思います。